

マス商事

# 海外売り上げ堅調に伸ばす

## ASEAN横断的なサポート体制

製造装置商社・マス商事は、海外売り上げを伸ばしている。海外各拠点の営業やサービスエンジニアの人員を増強するとともに、顧客に技術情報を提供する「プライベートセミナー」の開催を計画する。



大金 執行役員

同社はヤマハ発動機（ロボティクス事業部）代理店として実装機を中心にプリント基板検査装置、クリームはんだ印刷機などSMTに関する装置を幅広く扱う。日本国内のほか中国（蘇州、深圳）、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、タイ、ベトナム（ハノイ、ホーチミン）、メキシコ、インドに営業拠点を構えて、海外展開する日系企業向けのビジネスに対応している。

営業を統括する大金裕和営業統括本部執行役員・マストレーディングシンガポールMDは「今年度（2023年9月期）は国内海外ともに上期は期待ほどに売り上げが伸びなかった。下期は中国は厳しい状況が続いているが、ASEANがコロナ前の動きを取り戻し、計画通りの売り上げ推移になってきた。タイは日系企業の車載や家電、空調など、インドネシアはオートバイ向け、インドも車載関連向けなどがけん引し、実装機の販売が伸びている。このほかフィリピンも堅調で、インドは車載など実績が増えてきた。ASEAN各国の販売増が中国の落ち込みをカバーしている。EV関連の需要も取り込めるようになってきた」と語る。

実装機ではヤマハ発動機の「YRM20」を売り込んでいる。新型高速フィーダーとの組み合わせでクラス世界最速（最適条件時）11万5000CPHの搭載能力を実現した高効率モジュラーマウンター。大金執行役員は「基板に搭載する部品点数も従来よりも増えており、効率よく生産するために顧客の高速機に対する要求も高まっている。YRM20は顧客からは高速性と汎用（はんよう）性を兼ね備えた実装機として高い評価を得ている。また、ヤマハ発動機グループのヤマハロボティクスホールディングス（YRH）の製品の引き合いが増えている。ASEANなど半導体関連の顧客を開拓したい」と述べる。

ヤマハロボティクスホールディングスは新川（ボンダー）、アビックヤマダ（モールドディング装置）、PFA（半導体検査装置）を擁している。セミナーを開催

同社は今年3月、一新したテクニカルセンター（横浜市港北区）で3年ぶりに顧客を対象にしたSMT関連のプライベートセミナーを開催し、好評を博した。大金執行役員は「ASEANでも工場の現場技術者らを対象にした技術セミナーを開催してほしい、といった要望が増えてきている。タイなどでの開催を検討している」と言う。

海外事業拡大に向けて、各拠点の営業やエンジニアのサービス体制強化のために人員増強を進めている。同時に、タイのエンジニアがベトナムの顧客をサポートしたり、ASEAN各拠点のエンジニアがインドの顧客をサポートするなど、ASEAN域内での横断的な取り組みを積極的に進めている。同社の強みとして、顧客からも高い信頼を得ている。今後の現地従業員の要職への登用を積極的に進める」と話している。

セミナーを開催